

子どもたちが安心して通行できるよう

木地谷 基視さん(久慈市山形町)



新緑から紅葉の季節の輝くような白樺林の風景は圧倒的です。一転して真冬は、急カーブと急な坂が続くこの道路は、交通事故が毎年のように発生するなど、非常に危険です。

道路は、山形町内から葛巻高校への通学や通勤など、地域住民のあらゆる日常生活を支えています。

また、昨年3月11日に発生した東日本大震災により、道路の重要性を再認識しました。

昨年誕生した長女や子どもたちが、この風景の素晴らしい平庭峠を安心して通ることが当たり前となるよう切に願っています。

妊婦も安心して通行できるよう

本宮 泉さん(泉田)



町内にある葛巻病院の産婦人科は、週1回の診療のため、出産をすることはできません。そのため、町内の妊婦は町外で出産しなければならず、私も2人の娘を久慈市で出産しました。

元気な妊婦でも妊娠後期は2週間に1回、臨月には週に1回の妊婦検診があり、大きなお腹で、急カーブの多い平庭峠を越えて通うのは大変です。ましてや私は妊娠中に入院するトラブルなどもあり、非常に大変な思いをしました。幸い夏場の出産ですが、これが冬場だとさらに大変です。妊婦が安心して通行できるよう平庭トンネルの早期着工・完成を願っています。

第10回国道281号平庭トンネル早期着工・完成促進住民大会は6月2日、久慈市山形町の平庭山荘で開催され、県議会議員や本町と久慈市の住民など、約200人が参加しました。大会では、鈴木満実行委員長が、「国道281号は県都盛岡市と久慈市を結ぶ主要幹線道路です。さらに、昨年3月の東日本大震災以降、内陸と被災地を結ぶ幹線道路として、ますます

急カーブ・急な坂を解消しより安全に

重要になっていくため、早期着工・完成を念願します」とあいさつしました。続いて、久慈市内の福祉施設に勤める木地谷基視さんと、2人の娘を久慈市で出産した本町泉田の本宮泉さんの2人が意見を発表(概要は左のとおり)を行いました。参加者は10回の節目に当たり、今後も粘り強く要望していくことを誓い合いました。



トンネルの早期着工・完成を祈念し、万歳三唱を行う参加者

被災地の野田・普代村を視察

輝くふるさと常任委員会は4月20日、昨年3月の東日本大震災で被災した野田村と普代村の視察を行いました。視察には、鈴木町長も同行。陸中野田駅から普代駅まで、三陸鉄道の車窓から臨む風景には、依然として「がれき」が付いている風景が目にあたりました。一行は、一日も早い復旧・復興を願っていました。

三陸鉄道に乗りし、震災当時の復旧・復興の状況を聞く議員ら



ずーっと 姉妹です!

北中城村議会主催の「感謝の夕べ」で、姉妹の絆を再確認した両町村議員(森のこだま館)

本町の姉妹町村である沖縄県北中城村議会(花崎為継議長)の全議員14人と事務局2人が、6月25日から27日までの3日間、本町を訪れました。

来町した25日夜、議会主催の歓迎会が行われ、議員のほか鈴木重男町長や町の関係者、これまで同村と交流のあった町民など約90人が参加。中崎和久議長は、「平成元年に姉妹町村の盟約を結んで以来の交流。これからはずーっと姉妹です!」と、歓迎しました。

翌26日は、鈴木重男町長の「山村の持つ力」と題した講演に熱心に耳を傾けました。午後からは、中村哲雄前町長の案内で視察したくまき高原牧場で、新エネルギーの取り組みなどについて全議員が質問するなど、活発な研修を繰り広げました。

最終日の27日は、中崎議長の案内で昨年の3・11で被災した山田町を視察。花崎議長は「一日も早い復興を願っています。」と議員全員からの復興支援金を手渡しました。

三日間の研修を終え、「今度は議会の常任委員会で」、「家族で」「仲間同士で」と、再び訪れることを誓い、今後も交流を続けることを約束しました。

写真①「よぐ〜おでんした」と町の3役をはじめ中崎議長ほか全員でお迎えした歓迎セレモニー(役場会議室) 写真② 地区センターに設置された太陽光発電施設の発電量や売電量をテレビ画面で確認し、「すばらしい!」と絶賛する皆さん(小屋瀬農村センター) 写真③ 職員全員の歓迎を受け「度肝を抜かれた」と、感激しきりの皆さん(役場前)

北中城村議会の皆さんが来町

